

「腰が強い」と「心の張り」

偉丈夫でなければ剛力でもない。強情でもなければ頑固でもない。が、「腰が強い」御仁がいる。

謙虚で「腰が低い」ではない。「腰を入れる」「腰を割る」の構えをとるわけでもない。

地位を獲得し「腰を落ち着ける」わけでもない。

飄飄 {ひょうひょう} した人物とも違う。しっかり世俗に関わっている。世俗にもまれても、たやすく屈しないと云うはか、ブレない。変化しないのではない。変化の機に食欲に応じる。

この特性は生まれ持った地金とも云うべきものだろうか。さりとて「地金が出る」と云った面持ちは感じられない。

「腰が強い」としか云えない。

地鉄 {じがね} は、地金の質が異なれど熱い内に鍛えられると良い地鉄になる。刀鍛冶も少なくなったが地金を熱い内に打つ親も少なくなった。

寄る年波には勝てず腰が弱くなる。

その昔は、ワンマン社長にも、馬場さん猪木さんにも、その他諸々にも たやすく屈してこなかった。

で、鏝のない腰刀を差す。腰に喝を入れる。と云うより物事をやりぬこうとする気力「心の張り」を入れる。腰が強かったのは心に張りがあったからと歳食い、わかる。

外出するときは鉄扇に代える。おまわりさんに職務質問されるから。